

# みのEDO

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会  
TEL 0572-43-2141  
発信：多治見市・笠原町東京情報局  
TEL 03-5225-6863

## ◆◆◆ ショールームニュース1 ◆◆◆

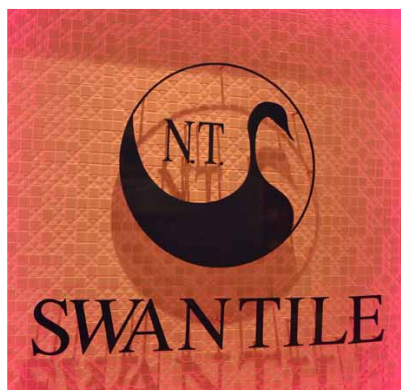
### 日東製陶所 東京ショールーム「SWAN TILE」1月に新設オープン!



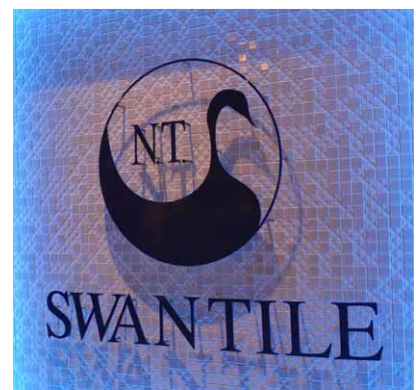
ショールームの前に勢ぞろい! 日東製陶所の皆さん



「SWAN TILE」ロゴとエレガヌーヴォのパターン張り



「SWAN TILE」ロゴとクロスシャインの壁面に光の演出によるコラボレーション (7色LEDが点滅)



「SWAN TILE」のブランドでおなじみの外装・内装タイルメーカー、(株)日東製陶所(若尾幸将社長/本社・岐阜県多治見市)では、このほど東京・西新宿のリビングデザインセンター OZONE 内に東京ショールーム「SWAN TILE」を1月27日より正式オープンした。同社はこれまで東京にショールームを設けていなかったが、「内装・床タイルをはじめとする各種タイルを幅広く展示するほか、タイルに関するアドバイス・ワークショップなど新しいタイルコミュニケーションの場として機能させていきたい」と、最大のタイル消費地である東京に進出しオープンの運びとなったもの。タイルのこれからの市場開拓へ期待がかかる。





壁床ともにタイルに囲まれたショールーム



内装壁タイルのパターン張り展示



カフェバーのしつらえも大きな特長

### タイルのトータルな提案を！

そうした内に秘めたる強い思いを若尾社長は、オープニングセレモニーで次のように述べた。  
 「これまで地元・多治見で一所懸命タイルをつくってきましたが、3年ほど前から社内で企画室というプロジェクトを立ち上げて、そこを中心にこれからのタイルの将来展望について話し合ってきました。私どものタイルの6～7割は首都圏で使われていますので、やはりその御膝元に新店してみようと、昨年5月に営業所を開設しました。そこで営業活動してみて、タイルを実際に見て、触って、具体的に相談できる場がないとタイルを首都圏市場に普及していくのは難しいのではないかと結論に達し、こちらにショールームをオープンすることになりま

した。」

ただ同社の主力商品は内外装壁タイルで床タイルはつくっていないため、ショールームに床タイルが展示できない。それではタイルのトータルな提案はできないので、中国製品を輸入しようかと検討したりもしたそうだが、昨秋、地元の床タイルメーカーである同業他社の工場を丸ごと引き受けることとなり、その床タイルブランドを継承し、「らくらくり〜ん」という商品名の機能性床タイルを中心とするラインナップを揃えて展示することができたという。  
 「汚れが落ちやすい・傷がつきにくい・滑りずらいという特長があり、魅力的な商品ですので、大いに期待しているところです」と若尾社長は意気込みを語っていた。





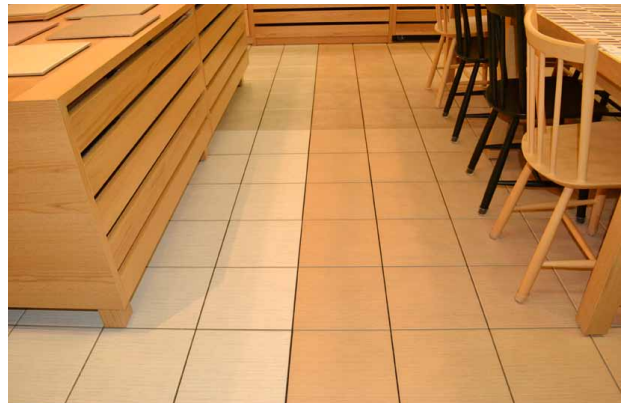
グループ会社(株)TChicの床タイルの展示



TChicの床タイルの展示



テーブルトップ内装タイルのパターン張り



機能性床タイル「らくらくり〜ん」；  
汚れが落ちやすい・傷がつきにくい・滑りづらい



思いを語る若尾社長

### タイルの情報センターとして――

同社は昨年、経団連が表彰するグッドカンパニー大賞を受賞した。自社内の省資源の取組みや、いろいろな地域貢献活動のほか近年の業績向上などが評価され、多治見市の会社では初の受賞ということになった。こうした賞に恥じないように一所懸命に地元でタイルをつくっていきたい、と社員一丸となって意欲を見せていた。

リビングデザインセンター OZONE は、新宿パークタワーの3階から8階までの6フロアに、住まいづくり&インテリアのソリューションセンターを展開する。どのように暮らし、何を選び、どう使うか――。日常を見つめ、生活を想い描く「リビングデザイン」をカタチにするために、生活者とデザインのプロ双方が活用できる情報セ

ンターとして利用されている。「タイルに実際にふれて楽しみ、タイルの情報にあふれ、そのお客様にふさわしい住まいづくりに必要な、タイルの答えを見つけられる情報センター的なショールームにしたい」と、東京ショールームの責任者・加藤祐介マネージャーは抱負を語る。

- 日東製陶所 東京ショールーム「SWAN TILE」  
〒163-1006 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー  
リビングデザインセンター OZONE6 階  
TEL 03-6304-5604 FAX 03-6304-5624  
www.nittoseitosh.co.jp  
営業時間：10：30～19：00  
休館日：水曜日（祝日を除く）、夏季・年末年始
- 日東製陶所 東京オフィス  
〒106-0031 東京都港区西麻布 4-10-3 ヴィラあざぶ 102

## ニッタイ工業 東京営業所&amp;ショールーム 昨秋、待望の移転オープン!



エントランスからショールーム左側をのぞむ



エントランスからショールーム右側をのぞむ



「豊かな街並みを提案するタイル・レンガメーカー」を掲げて、外装タイル・レンガ・石材を製造・販売するニッタイ工業(株) (水野雅之社長 / 本社・愛知県知多郡武豊町) では、東京ショールームを2014年10月10日より正式オープンしている。文京区千石にあった従来の東京営業所&ショールームを移転し、「外装・床タイルをはじめ各種タイルを幅広く展示し、タイルの魅力を実際に見て、触れて体感していただけるスペース」として、どなたでも直に一覧できるショールームがオープンの運びとなった。

「当社は築炉業向けの耐火レンガの製造からスタートしましたが、現在では湿式外装・床タイルの製造・販売を事

業のコアとし、自社生産タイルを補完するため、日本国内の提携工場より仕入商品、世界一のタイル生産国であるイタリアを始めとする海外生産などを積極的に自社ブランドに取り入れ、トータルに外装・床タイルを提案できる体制を築いております。今後は、更に柔軟な発想に立ち、タイルの周辺素材までを視野に入れ、新しい商品ラインの構成の確立を目指していきます。」

水野社長がホームページでアピールするこだわりの商材を、まさに国内最大のタイル市場である首都圏のお客様に実際に手に取って確認してもらえる、待望のタイル最前線基地である。陣頭指揮にあたる奥村 充 常務取締役は、次のように抱負を語る。





カフェに見立てたショールーム内観（左側）



ショールーム内観（左側）



湿式外装タイルの展示（右側）



内装タイルのサンプル展示（左側）



ショールーム内観（右側）



寛ぎの商談コーナー（右側）

「タイルの国内市場が厳しいなか、ワンフロアでこれだけ広いショールームを開設できましたので、湿式タイルの魅力を感じていただきながら、タイルのランドマークとなるような、タイルの市場を開拓する拠点として頑張っていきたい。」

ニッタイ工業は、販売面では他社に先駆け自社ブランドの消費地への直販に取り組んでおり、札幌・東京・名古屋・大阪・福岡を起点として日本全国への営業を展開する。水野社長は、「エンドユーザーにより近い所での情報の受発信に取り組んでおり、設計者、施工者、生活者

それぞれからの情報をもとに、真に必要とされる新製品を開発し、お客様の期待に応えていきます」と展望を語る。

■ニッタイ工業(株) 東京営業所&ショールーム

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-29-24

TEL 03-5319-9521 FAX 03-5319-9531

<http://www.nittai-kogyo.co.jp>

営業時間：10：00～18：00（月～金）

10：00～17：00（土）

休館日：日曜、祝祭日、年末年始、夏季休暇

## ◆タイルフェアレポート◆

# きらびやかなテーブルウェアの世界でタイルアートの魅力を発見！

テーブルウェア・フェスティバル 2015 ～暮らしを彩る器展



部門1：テーブルウェア・オリジナルデザイン部門  
大賞・経済産業大臣賞：ile8 イレヤガラス（千葉県）『しまのうつわ』



部門2：テーブルウェア・コーディネート部門  
大賞・経済産業大臣賞：福田早苗（岡山県）  
『お☆バンザイ』



〈特別審査部門〉  
最優秀奨励賞：外山ますみ（東京都）  
『あえて和風に』

日本の名窯から海外ブランドまでさまざまな器を一堂に集めて、食生活文化ならびにテーブルウェア文化の向上をテーマにした生活提案型文化催事として、今回で23回目を迎えた「テーブルウェア・フェスティバル 2015 ～暮らしを彩る器展」が、先ごろ2月1日（日）～9日（月）まで東京ドームで開催され、9日間で30万人を超える来場者を集めて盛況のうちに幕を閉じた。その華やかな催事から、テーブルウェア大賞をはじめ陶板やタイルアート関連の話題をピックアップしてご紹介する。主催は、テーブルウェア・フェスティバル実行委員会（読売新聞社、株式会社東京ドーム）。

### オープニングセレモニーで大賞を発表

「テーブルウェア・フェスティバル」は、彩りや潤いのあるライフスタイルの楽しみ方を提案する“器の祭典”として、上質な暮らしを求める来場者（圧倒的に女性）が多いことも大きな特徴となっているが、開会初日の午前9時よりオープニングセレモニーが開催され「第23回テーブルウェア大賞～優しい食空間コンテスト」の入賞作品発表&表彰式が行なわれた。部門別に大賞・経済産業大臣賞および最優秀奨励賞・東京都知賞の表彰が行なわれ、最後に副審査委員長を務める東京藝術大学の宮田学長が大賞・最優秀賞作品のすばらしさを称えた審査講評を語って終了した。

#### 【主な受賞作品】

〈部門1：テーブルウェア・オリジナルデザイン部門〉

■大賞・経済産業大臣賞：ile8 イレヤガラス（千葉県）『し

まのうつわ』

講評：作者の意図する「ガラス素材が持つやわらかな表情」の造形がみごとに表現されている。ゆらぎのある曲線のカットとサンドブラストによるそれぞれの材質感の違いが心地良くマッチングされ、作り手の優しさと、使い手のときめきのバランスが深く考慮された秀作。

〈部門2：テーブルウェア・コーディネート部門〉

■大賞・経済産業大臣賞：福田早苗（岡山県）『お☆バンザイ』

講評：お母様の器とお好みの器で狭い空間に日本の夕餉が演出されている。高台の鉢二つも高低のバランスをとり、ごちそうがのると灯火の光にゆれる家族の笑顔が見えるよう。板をテーブルに仕立てた並べ方を、モダンな花器の枝が引き立てている。





石坂浩二さんテーブルセッティング



黒柳徹子さんテーブルセッティング



〈美濃焼 多治見市〉ブース



〈美濃焼 土岐市〉ブース



〈美濃焼 丸仙化学工業〉



#### 〈特別審査部門〉

■最優秀奨励賞：外山ますみ（東京都）『あえて和風に』  
講評：素直で清々しさが表現され、好感のもてる作品となっている。器やクロスなどにも気持ちが行き届いており、それらが作り出すハーモニーの結晶が評価されたのだろう。

#### 今回展示の見どころ

今回のテーブルウェア展示では、琳派 400 年にちなみ京焼・清水焼にスポットをあてた特集企画が前面に打ち出されたほか、石坂浩二さん、黒柳徹子さんをはじめとする著名人の個性豊かな「テーブルセッティングによる食空間提案」、毎年 2 千点以上の応募がある「テーブルウェア大賞コンテスト」、日本が誇る陶磁器・漆器等を紹介する「日本の器を訪ねて」などの展示に加え、250 以上の窯元や作家の出展する「展示販売コーナー」など、充実した作品に見どころがあった。

日本の器を訪ねて／展示販売コーナー

漆、陶器、磁器など日本の伝統と美と技を一堂に会し、現代生活にも合う上質で趣きのある和の食空間を提案する「日本の器を訪ねて」では全国の焼物産地の産業組合から 8 団体が出展していたが、わが美濃焼の里からは多治見市・土岐市 2 団体が花のあるテーブルセッティングを印象づけながら、個性ある展示を繰り広げていた。また、隣接した展示販売コーナーでは、〈美濃焼〉〈美濃焼（土岐市）〉〈みずなみ焼（岐阜県）〉などの出展ブースが、美濃の焼物の魅力を強力にアピールしていた。その展示販売コーナーから、引き付けられた窯元作品や陶板・タイルアートなどをご紹介しておきたい。

〈美濃焼 丸仙化学工業〉

美濃焼の里から丸仙化学工業は、華やかな食空間を創造する手作り工房として、60cm 級の超大皿から手ごろなサイズのものまで、比較的フラットな平たい器を展示してインパクトを与えていたが、これらはそのままインテリア装飾材として壁面をかざっても見ごたえがあるだろう。

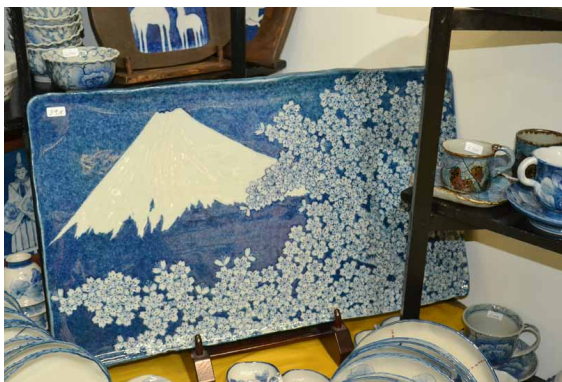




〈美濃焼 宗山窯〉



〈美濃焼 幸兵衛窯〉



〈美濃焼 菊石窯〉



#### 〈美濃焼 宗山窯〉

焼成した陶器に天然素材である漆を施し、重厚で艶やかな美しさをもつ陶器の質感と日本古来の深い色合いをもつ曙、根来の伝統的な質感を堪能できる——そうした二つの美をあわせもった器を「漆陶」として展開する宗山窯の展示空間にも、その独特な装飾技法に伝統を現代に表現した和みが印象深い。

#### 〈美濃焼 幸兵衛窯〉

幸兵衛窯は1804年（文化1）、初代加藤幸兵衛により開窯され、まもなく江戸城に染付食器を納める御用窯となる。五代幸兵衛（1893～1982）は、青磁、金襴手、赤絵、天目など中国陶磁をはじめ幅広い技法を駆使し、

現在の幸兵衛窯の基礎を築き上げた。六代の加藤卓男は古代ペルシャ陶器の斬新な色彩や独創的な造形、釉調を研究して名陶ラスタースターの復元をはじめ日本文化との融合に成功し、人間国宝に認定された。現在は七代幸兵衛が、受け継いだ豊かな色彩や技法で品格ある和食器を制作する。

#### 〈美濃焼 菊石窯〉

素焼きをした生地に透明釉をほどこし、呉須という顔料で描いた柔らかな文様のある器を染付けというが、美濃古染付は江戸時代以前から今日まで続く我が国の伝統技法で、機械生産ではなく、一つ一つていねいに手づくりで生み出される器や陶板には深い味わいがある。





✧ 〈伊万里・鍋島焼 虎仙窯〉



✧ 〈もぐら窯〉



✧ 〈九谷焼 五彩堂〉



✧ 〈美野里焼〉



#### 〈伊万里・鍋島焼 虎仙窯〉

伊万里・焼鍋島焼の窯元・虎仙窯は、その歴史、伝統、技術を守り、手仕事・手描きによる鍋島を造り上げつつ、品質、機能性、安全性を求め新たな鍋島の創造をめざす。現・川副虎仙の祖は代々御細工場（鍋島藩窯仕事場）で青磁の製作と絵描きの用命を承っていた家系で、当代は特に青磁焼成の近代化研究に没頭し苦心の結果、中国・朝鮮の製品や藩窯時代の作品に比して何ら遜色のない優秀鍋島青磁を焼き上げている。

#### 〈もぐら窯〉 長崎県

もぐら窯は、若い女性陶芸家・画家の西 美紀と双子兄弟創作ブランド「ふたごモグラ」が作陶する工房で、もぐら窯ギャラリーはそれらの個性豊かな陶芸作品を展示販売する、アートショップとなっている。絵付けも「自由気ままに、心のままに」をモットーにその時々インスピレーションによる手描きで、絵画のような器や陶板画などを制作する。

#### 〈九谷焼 五彩堂〉 石川県

九谷の伝統工芸士・作家である中村陶志人は、古来よりその愛くるしいまなざしや表情、しぐさは人の心を優しくいやすといわれる雀たちを見事に再現し、一つひとつ手描きにこだわった作品として美しい九谷素地に描く。

#### 〈美野里焼〉 新潟県

陶芸家・小黒陶三が平成4年に開窯、窯名は茨城県にあった〈美野里町〉から命名された。手すき越前和紙の楮（こうぞ）の繊維と厚みを活かし、和紙に下絵具で彩色貼り付け施釉後 1200℃で焼成、和紙に粘土をしみこませ成型したもので、和紙の風合いと軽さを感じさせるとともに、陶磁器としての強度ももつ。和紙の繊維を押し付けた網目紋様が独特の気品をもたらしている。

#### ■「テーブルウェア・フェスティバル」問合せ先

東京ドームシティわくわくダイヤル TEL03-5800-9999

<http://www.tokyo-dome.co.jp/tableware>